みんなで進めよう
茨城農業改革

緑のしるべ

平成 29 年 12 月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター
稲敷市江戸崎甲５４１
TEL　０２９（８９２）２９３４
FAX　０２９（８９２）６６８４

花を使った6次産業化「ドライフラワーの魅力発信」

花を使った6次産業化の推進

「地域交流館みほふれ愛プラザ」において、アレンジ講習会を定期開催し、ドライフラワーの魅力を発信しています。普及センターの職員が講師となり、農業者らと一緒になって色鮮やかなリースやブーケを作成しています。作成したブーケは直売所でも試験的に販売し、商品力の見極めを行っております。普及センターでは今後も花の６次産業化を推進していきます。

果樹の剪定・結果枝管理

ウメの剪定等のポイント

① 主枝・亜主枝先端部の更新

主枝・亜主枝の先端が衰弱または下垂した場合は、上向きの新しい側枝や発生方向のよい徒長枝のあるところまで切り戻して先端を更新して樹勢を維持しましょう。

② 枝の更新

側枝は三～四年を目安に更新し、長大化させないようにしましょう。側枝基部の短果枝がはげ上がってきたら、近くに発生した発生方向のよい一年生枝を活用して、新しい側枝を育成しましょう（図１）。

一年目冬に、新梢を切返します。強い発育枝は軽く切返し四五度に誘引します。翌年先端二、三芽は長果枝にそれ以下は中果枝や短果枝になり、三年目夏に結実させます。

毎年二五から三〇％の側枝を更新するために予備枝（二年目の状態）を準備します。

ナシの結果枝育成のポイント

短果枝を活用することで着果安定しますが、年々花芽が着生不良となるので側枝の更新を積極的に行うために、予備枝を十分確保しましょう。（結果枝：予備枝＝１：１程度）

短果枝の育成は、新梢を約三〇センチに切返し、翌年予備枝から発生した新梢の先端を弱く切返し四五度に誘引します。三年目は先端新梢を三～四芽で切返し、先端以外の新梢は切り取り、棚に固定し結実させます（図２）。

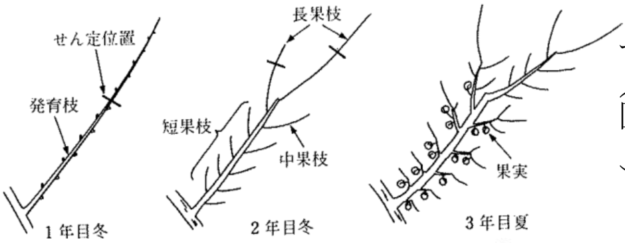


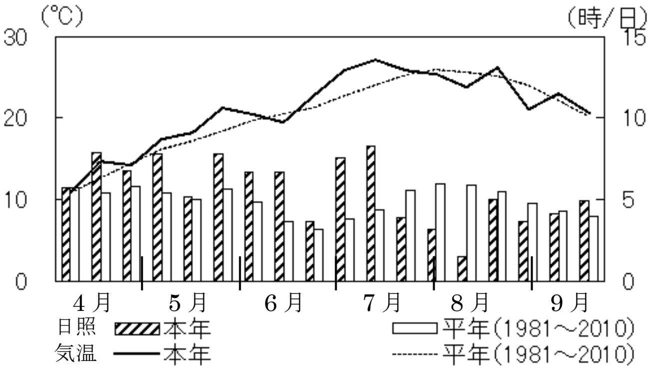
図１．ウメの側枝の更新方法

図２．ナシの短果枝着生の為の予備枝のとり方

平成二九年産米を振り返る

平年と比較して、本年の平均気温は、七月中旬まで高く、八月上旬から九月上旬は低く推移しました。一日あたりの日照時間は七月中旬まで多く、八月上中旬は非常に少なく推移しました(図)。「あきたこまち」の出穂期、成熟期は平年並みとなりましたが、「コシヒカリ」は出穂期が五日早く、成熟期は一日遅くなりました。また、稈長が長くなり、「コシヒカリ」では一部の圃場で倒伏が発生しました。

図　旬別の平均気温と日照時間の推移（平年：1981－2010）



【収量と品質】

一〇a当たり坪刈り収量は、「あきたこまち」平年並み、「コシヒカリ」は減収となりました(表)。

「あきたこまち」の平年並みの要因は、穂数が少なく、一穂籾数が多くなったため、「コシヒカリ」の減収要因は、八月上旬からの日照不足により登熟が不良になったためと考えられました。

表　平成29年産米の生育及び収量

品種		移植日 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)
あきたこまち	本年	4/29	7/17	8/24	91	19.2
	平年	4/30	7/17	8/24	87	18.4
コシヒカリ	本年	5/5	7/25	9/7	95	20.0
	平年	5/6	7/30	9/6	89	18.4
ふくまる	本年	4/28	7/16	8/23	84	19.3

品種		穂数 (本/㎡)	一穂籾数 (粒/穂)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	収量(坪刈り) (kg/10a)
あきたこまち	本年	363	89	73	22.6	596
	平年	442	76	80	21.6	605
コシヒカリ	本年	436	77	58	22.2	520
	平年	414	79	79	21.3	550
ふくまる	本年	537	71	70	24.4	662

※あきたこまちは稲敷市下須田の数値。平年は平成19年から平成28年の平均。
※コシヒカリは稲敷市浮島の数値。平年は平成19年から平成28年の平均。
※ふくまるは稲敷市堀川と稲敷市押砂に設置した実証区の平均値。

「あきたこまち」、「コシヒカリ」ともに白未熟粒やカメムシ等による虫害は少なく、玄米外観品質は良好でした。しかし、「コシヒカリ」が倒伏していた一部のほ場では、青未熟粒が多くみられました。

【ふくまるについて】

茨城県の育成品種である「ふくまる」は、大粒で安定した外観品質とおいしさを兼ね備えた早生品種です。生産目標として実収量六〇〇kg/一〇a以上、千粒重二三・五g以上を掲げており、多収、大粒であることが特徴です。また、稈長も「コシヒカリ」より短く、倒伏しにくい品種です。

本年は水稲の登熟期間にあたる八月の日照が少なくなり、「コシヒカリ」では登熟不良で減収しましたが、稲敷市に実証区として設置した「ふくまる」は、坪刈り収量で生産目標を達成しました。また「ふくまる」の稈長は「コシヒカリ」より一〇cm以上短く、千粒重も一割程度重くなり、品種特性通りの結果となりました。

稲敷地域での作付も増加しており、普及センターでは「ふくまる」の実証ほ毎年を設置して、検討会などを通して生産者の皆様に生育や特性を紹介しています。

【「ふくまる」栽培における全量基肥診断施肥技術】

全量基肥肥料を利用する場合、「ふくまる」の施肥量は、「コシヒカリ」より窒素成分で三～四kg/一〇a増肥することが指標となっています。以前は、「コシヒカリ」の栽培歴がない圃場では土性によるおおまかな判定しかできませんでしたが、水田における地力の指標の一つである可吸態窒素の簡易測定方法が確立し，その結果から適正施肥窒素量を推計できます。

「ふくまる」についてもっと詳しく知りたい方は普及センターにご相談ください。

JA茨城かすみ里芋部会が設立されました

十一月十四日、JA茨城かすみ阿見営農経済センターで、関係者ら二十名が集い、「JA茨城かすみ里芋部会設立総会」が開催されました。

当日は、市場担当者を交えて品質・規格を揃えるべく目揃を行いました。また、規格外品や親芋といった、通常廃棄する部位を活用して試作した里芋コロッケを試食し、産地振興の機運が盛り上がりました。普及センターでは引き続き、関係機関と連携して、産地を盛り立てていきたい考えです。

※里芋コロッケは平成二二年に予定されている道の駅開設にむけ，阿見町農産加工研究会が現在開発中です。

研修型商談会のお知らせ

普及センターでは毎年筑波銀行と連携し、農業者向けの「研修型商談会」を開催しています。

本商談会では、バイヤーの方からアドバイスを受けながら商談を進めます。初めて商談会に出るという方も安心してご参加いただけます。

参加をご希望の方は後ほど詳細をご案内いたしますので、十二月末頃までに普及センターまでご連絡ください。

日時：平成三〇年一月末を予定
場所：筑波銀行本部ビル一〇階

【参考】前回の様子

ヨークベニマル、筑波西武店、外食チェーンなどのバイヤーと商談を行いました。

新任農業士紹介

女性農業士

農業経営と農家生活の向上に意欲的に取り組み、担い手の育成や地域農業振興に活動する女性農業者を知事が認定するものです。

武内　加奈子
稲敷市浮島
露地野菜

武内加奈子さんはレンコン専作経営に取り組んでいます。環境にやさしい農業の実践や地域のれんこん組合に所属し、品質向上に努力しています。

青年農業士

地域農業のリーダーとなる優れた若手農業者を知事が認定するものです。

宮本　一治
龍ケ崎市羽原町
水稲

宮本一治さんは水稲の生産を行っています。受託作業なども積極的に行っており、地域農業の維持発展に貢献しています。

石井　信之
美浦村見晴
露地野菜

石井信之さんは平成二十一年に新規参入し、レンコンの生産を行っています。特別栽培やエコファーマーを取得し、環境にやさしい農業を実践しています。

池延　浩幸
美浦村信太
畜産

池延浩幸さんは黒毛和牛の肥育を行っています。地域内の農業後継者と積極的に情報交換を行うなど、幅広く活動を行っています。

平成二八年度退任者

青年農業士
横田　修一　さん(龍ケ崎市)
栗山　壮史　さん(牛久市)

長い間おつかれさまでした